

2019年大発会理事長挨拶

2019年1月4日

皆様、明けましておめでとうございます。

全国的に厳しい寒さと雪に見舞われた年末年始となり、新たな年も波乱の年明けを予感された方も多かったものでないでしょうか。

2019年、平成31年の札幌証券取引所大発会を迎えるにあたり、志村北海道財務局長をはじめご来賓の方々、関係者ならびに会員証券会社および多くの晴れ着の証券レディにお越しいた



(小池理事長)

だきましてまことにありがとうございます。ひとことご挨拶を申し上げます。

今年は、平成最後の年であるとともに30年ぶりに新元号のスタートの年でもあります。前回の昭和から平成の時はいろいろと大きな出来事がございました。リクルート事件やオウム真理教の事件、消費税の新規導入と、政権が短期で交代し、株価が史上最高を記録したあとバブル経済が破綻の兆候を見せる一方、世界的には米ソ冷戦終結の流れがはっきりし、東西ドイツの統合や天安門事件といった大

きな出来事が起きた年でもありました。今回は保護主義の台頭、米中覇権対立、BREXITの混乱、中東や朝鮮半島の不安定化等地政学リスクも増大しますので、今回も経済の振れ幅は大きいのではと予測する向きが多いようです。また国内でも消費税増税、地方選挙に加え参議院選挙の年にあたりますが、ただ史上最長の好景気の持続の中で企業業績も政治情勢も比較的安定しており、東京オリンピックや大阪世界万博プロジェクトなどを見据えて株式市場もおおむね堅調な展開を基調としつつ、思わぬリスクによる波乱要因に注意といったところでしょうか。北海道経済についても最近の災害からの復旧が徐々に進み食糧基地機能が回復してきているほか、引き続きインバウンド観光需要で北海道ブランドは高まっていますので、深刻さを増す人手不足をどう克服してゆけるか、法改正で活用範囲が広がった外国人労働者を生かすなど新たな打開の道もあるものと思います。また道内証券界においても企業の資本政策への関心と上場意欲の高まりを受けてあらたな会員証券会社の参入などもあり、今年も新たな上場企業の誕生を期待しているところであります。



「手締め」
日本証券業協会
北海道地区協会 松浦会長

さて、今日はゲストとして北海道コンサドーレ札幌の宮澤裕樹キャプテンと進藤亮佑選手をお招きしております。みなさんご承知の通り、コンサドーレ札幌は昨シーズン、J1.4位というこれまでに最高の成績を収めました。宮澤キャプテンは、チームのまとめ役として、また攻守の要として、チームを支えておられます。また、進藤選手は2018年リーグ戦全試合フル出場を果たされ、チーム躍進の原動力としてご活躍されている選手であります。地元で夢を与え地域の活性化を応援するスポーツ団体という点で札幌証券の行事にふさわしいということで、本所理事である北洋銀行の柴田副会長とアインホールディングスの大谷社長のご尽力にて実現いたしました。新年の札幌証券取引所の幸先良い取引開始の合図として、またコンサドーレ札幌の今シーズンの更なる飛躍を祈念して、今日はこの札幌証券の鐘を打鐘頂きたいと思っております。昨年8月にリニューアルした札幌証券の鐘は、早速札幌証券への新規上場があったり、記録的な取引額の伸びなどご利益のある鐘です。本日までご参加の皆様も鐘が鳴っている間にそれぞれ願い事をして頂ければと思っております。本年もよろしくお願いいたします。

札幌証券の鐘「打鐘」

「2019年は北海道の皆様とともに優勝を目指しますと願いこめて札幌証券の鐘を打鐘」

北海道コンサドーレ札幌
宮澤キャプテン
進藤選手

